

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

1

2

快適にお使いいただくために

第1章 ご購入後の操作

お買い求めいただいたワークステーションを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

3

リカバリとインストール

第2章 快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

4

困ったときに

第4章 困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

5

技術情報

第5章 技術情報

使いになる上での留意事項を説明しています。

目次

本書をお読みになる前に	4
お問い合わせ一覧	4
本書の表記	5

第1章 ご購入後の操作

1 セットアップ	8
Windows 2000 セットアップ	8
ネットワークの設定	11
2 ユーザー登録	13
ユーザー登録を忘れずに	13
3 プレインストール仕様	14
ソフトウェア一覧	14
ドライブ構成	16
アプリケーションのアンインストール	17

第2章 快適にお使いいただくために

1 コンピュータウイルス対策	20
VirusScan	20
コンピュータウイルスを発見した場合	21
コンピュータウイルスの被害届け	21
2 画面を設定する	22
3 Power MANAGEMENT for Windows	23
PMAN の機能	23

第3章 リカバリとインストール

1 リカバリ概要	26
リカバリの概要	26
リカバリの手順	26
留意事項	27
2 リカバリ操作	28
リカバリ前の準備	28
リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）	28
リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）	29
リカバリ終了後	31

3 ソフトウェアのインストール	32
ドライバのインストール	32
プレインストールソフトのインストール	43
添付ソフトのインストール	44

第4章 困ったときに

1 こんなときには	48
トラブル発生時の参照先	48
トラブルシューティング	48
Windows 2000 に関する Q&A	51
2 それでも解決できないときは	54
お問い合わせ前の確認シート	55

第5章 技術情報

1 その他の留意事項	58
索引	67

本書をお読みになる前に

お問い合わせ一覧

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2001年6月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

- はじめよう！インターネット（@nifty）
 - ・入会／@nifty サービス全般
ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
9:00～21:00（指定の休日を除く）
電話：0120-816-042
(携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902)
E-mail：feedback@nifty.com
URL：<http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>
 - ・パスワード再発行／各種手続き／解約
ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
9:00～21:00（指定の休日を除く）
電話：0120-842-210
(携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806)
E-mail：feedback@nifty.com

- VirusScan Ver.4.5.0 with SP1
日本ネットワークアソシエイツ株式会社
テクニカルサポートセンター
9:00～12:00、13:00～17:00（土日、祝祭日を除く）
電話：03-3379-7770
URL：<http://www.nai.com/japan/>
- Adobe Acrobat Reader4.05
ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。
ご了承ください。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

本書の表記

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
※重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなぎで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
      ↑   ↑
```

- ↑ の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブのドライブ名を、【CD-ROM ドライブ】と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ] : \$setup.exe

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」 - 「フロッピーディスク A」: 使用しない

お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 6 月現在のものです。変更されている場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professional を、Windows 2000 と表記しています。

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 を、Windows NT 4.0 または Windows NT と表記しています。

Microsoft® MS-DOS® operating system を、MS-DOS と表記しています。

VirusScan Ver.4.5.0 with SP1 を、VirusScan と表記しています。

Power MANagement for Windows を、PMAN と表記しています。

Adobe® Acrobat® Reader 4.05 を、Acrobat Reader と表記しています。

機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中表記		
CELSIUS 460	CELSIUS 460	[C460]	本ワークステーション ワークステーション本体

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScan は、米国 Network Associates 社及び関連会社の商標又は登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 2001

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第1章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたワークステーションを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

1 セットアップ	8
2 ユーザー登録	13
3 プレインストール仕様	14

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows 2000 の初期設定（Windows 2000 セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows 2000 セットアップ

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows 2000 セットアップを始めます。

留意事項

- Windows 2000 セットアップを行う前に、オプションを取り付けないでください（カスタムメイドオプションを除く）。Windows 2000 セットアップを行う前にオプションを取り付けると、Windows 2000 セットアップが正常に行われない場合があります。
- セットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- Windows 2000 セットアップ時に音が鳴るので、スピーカーを接続している場合はボリュームを調整してください。
- Windows 2000 セットアップの各ダイアログボックスが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows 2000 セットアップが正常に行われない場合があります。ダイアログボックスが完全に表示されてから、マウスで操作してください。
- 電源を入れたあと、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。

セットアップ

POINT

- ▶ Windows 2000 セットアップ中に、「Windows 2000 Professional CD-ROM 上のファイル 'xxxxx.xxx' が必要です。」というメッセージが表示されることがあります(xxxx.xxxにはcourf.fonなどのファイル名が入ります)。この場合、「コピー元」に「C:\\$SUPPORT\!386」と入力し、「OK」をクリックして、セットアップを進めてください。
セットアップが完了したら、次の手順に従って Windows 2000 Service Pack1 をインストールしてください。
 - 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
 - 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
 - 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
C:\\$support\\$sp\\$sp1\network.exe
 - 4 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
以降、メッセージに従ってインストールを完了してください。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

しばらくすると、「Windows 2000 Professional セットアップウィザードの開始」が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。

「ライセンス契約」が表示されます。

「使用許諾契約書」は、本ワークステーションにあらかじめインストールされている Windows 2000 を使用する上での契約を記述したものです。

3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

 **POINT**

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックしたあと、メッセージに従って操作してください。

「ソフトウェアの個人用設定」が表示されます。

4 「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。

「コンピュータ名と Administrator のパスワード」が表示されます。

5 「コンピュータ名」、「Administrator のパスワード」と「パスワードの確認入力」を入力し、「次へ」をクリックします。

「ネットワークの設定」が表示されます。

ネットワークの設定については、セットアップ完了後にネットワーク管理者に確認し、ご使用の環境に合わせて設定してください (→ P.11)。

6 「標準設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。

 **POINT**

- ▶ 「標準設定」では、次のネットワークコンポーネントがインストールされます。
 - Microsoft ネットワーク用クライアント
 - Microsoft ネットワーク用ファイルとプリント共有
 - インターネットプロトコル (TCP/IP)

「ワークグループまたはドメイン名」が表示されます。

7 「このコンピュータはネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「Windows 2000 セットアップウィザードの完了」が表示されます。

8 「完了」をクリックします。

- 9 「再起動する」をクリックするか、または15秒待つと本ワークステーションが再起動します。**

◆ 重要

- ▶ 「ネットワーク識別ウィザード」ダイアログボックスが表示されたとき、「戻る」をクリックしないでください。
再設定が必要な場合は、設定終了後に該当個所を修正してください。

「ネットワーク識別ウィザードの開始」が表示されます。

- 10 「次へ」をクリックします。**

「このコンピュータのユーザー」が表示されます。

- 11 「常に次のユーザーがこのコンピュータに...」をクリックし、手順5で入力したパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。**

「ネットワーク識別ウィザードの終了」が表示されます。

- 12 「完了」をクリックします。**

○ POINT

- ▶ ワークステーションでは、「Windows 2000 の紹介」ダイアログボックスにある「Windowsについて」をクリックすると、「ディスカバーツアーが見つかりません」ダイアログボックスが表示されます。この場合は、「ディスカバーツアーが見つかりません」ダイアログボックスで「c:\support\discover」と入力し、「OK」をクリックしてください。
- ▶ 仮想メモリの設定について
搭載しているメモリ容量が大きいなどの場合、仮想メモリに必要な容量が増加し、推奨する仮想メモリサイズが確保されない場合があります。推奨する仮想メモリの設定を行うには、ハードディスクに「最大サイズ」分の空き容量が必要です。ドライブに十分な空き容量がない場合は、別のドライブに設定を行ってください。

仮想メモリ	推奨値
初期サイズ	本体搭載メモリの1.5倍
最大サイズ	初期サイズの2倍

ただし、仮想メモリをブートボリューム以外へ設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合は、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに物理メモリ+1MB（仮想メモリの容量は含まず）以上の容量が必要です。

- 仮想メモリの設定方法
 - 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
 - 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「詳細」タブの「パフォーマンスオプション」をクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 4 ページングファイルが格納されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブを変更する必要はありません。

- 5 「選択したドライブのページング ファイルのサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 6 本ワークステーションを再起動します。

13 「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリックし、ワークステーションを再起動してください。

これで、Windows 2000 セットアップが完了しました。

ネットワークの設定

Windows 2000 セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせて、以降の手順に従って設定を行ってください。

ネットワークコンポーネントのインストール

POINT

- ▶ 使用するネットワークコンポーネントについては、ネットワーク管理者に確認してください。

- 1** 「マイネットワーク」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ネットワークとダイヤルアップ接続」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「インストール」をクリックします。
「ネットワークコンポーネントの種類の選択」 ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 設定するネットワークコンポーネントを選択し、「追加」をクリックします。
以降、メッセージに従って設定を行います。
- 5** インストール終了後、Windows 2000 Service Pack1 をインストールしてください (→ P.42)。

ネットワーク ID の設定

POINT

- ▶ 設定するネットワーク ID(コンピュータ名やドメイン名など)については、ネットワーク管理者に確認してください。

- 1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「ネットワーク ID」タブをクリックします。
- 3 「ネットワーク ID」または「プロパティ」をクリックし、コンピュータ名やユーザー名の設定を行います。

2 ユーザー登録

セットアップが終了したら、ユーザー登録を行ってください。

ユーザー登録を忘れずに

本ワークステーションが使用できる状態になったら、添付のユーザー登録カードに必要事項を記入し、投函してください。

ユーザー登録カードは、弊社やソフトウェア会社が自社製品のユーザーを把握し、さまざまな情報を提供する際に利用するものです。

ソフトウェアのバージョンアップ（ソフトウェアの機能を強化し、版数を上げること）時や電話相談などには、ユーザー登録をしていることが条件ですので、忘れずに投函してください。

3 プレインストール仕様

Windows 2000 セットアップが終了した時点での本ワークステーションの環境は、次のとおりです。

POINT

- 各ドライバおよびソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

ソフトウェア一覧

プレインストールソフト

名称	備考
Microsoft Windows 2000 Professional (Service Pack1)	「C:\Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft® Windows® 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。
Internet Explorer 5.01	WWW ブラウザです。
Microsoft IME 2000	日本語入力変換ユーティリティです。
DirectX7.0a	マルチメディアの機能を拡張します。DirectX7.0a に対応したソフトウェアの高速表示・高品位音声再生を実現します。
Windows 環境調査ツール (FM Advisor)	本ワークステーションの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。
Acrobat Reader	PDF (Portable Document Format) 書類を表示、閲覧、印刷できます。
光磁気ディスク・ユーティリティ	光磁気ディスクのフォーマットやフォーマット／イジェクト権限の変更を行うユーティリティです。

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください (→ P.17)。

添付ソフト（未インストール）

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

インストール方法は、「[添付ソフトのインストール](#)」（→ P.44）をご覧ください。

名称	備考
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（→ P.20）。
Power MANagement for Windows	本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです（→ P.23）。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
はじめよう！インターネット（@nifty）	インターネットのプロバイダである @nifty への入会用ユーティリティです。
Desk View	ローカルまたはネットワーク上のワークステーションの管理を簡単します。詳細およびインストール方法は、添付 CD-ROM 内の Readme.txt を参照してください。

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約4GB	FAT32
D	〔総容量〕 - [C ドライブの容量]	NTFS
E	CD-ROM または DVD-ROM ※、 CD-R/RW ※ ドライブ	
F	光磁気ディスク ドライブ※	

※ : カスタムメイドオプション

POINT

- 各ファイルシステムにアクセスできるOSは、次の表のとおりです。

	Windows 2000	Windows NT 4.0		Windows98	Windows95 OSR2 以降
		Service Pack4 以降	Service Pack3 以前		
Windows 2000 の NTFS	○	○	×	×	×
Windows NT の NTFS	○	○	○	×	×
FAT32	○	×	×	○	○
FAT16	○	○	○	○	○

- ドライブの DMA を設定する方法は次のとおりです。
 - 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
 - 「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。
 - 「セカンダリ IDE チャネル」または「プライマリ IDE チャネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャネルのプロパティ」ダイアログボック
スの「詳細設定」タブをクリックします。
 - 設定を変更し、「OK」をクリックします。
- DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して、DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。

アプリケーションのアンインストール

留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に気を付けてください。

- 起動中のアプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める

- DLL ファイルは削除しない

DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する

「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

Memo

第2章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

1 コンピュータウイルス対策	20
2 画面を設定する	22
3 Power MANagement for Windows	23

1 コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

VirusScan

本ワークステーションにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan が添付されています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行った上で使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

VirusScan はご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（→ P.44）。

POINT

- ▶ 「VirusScan」を起動していると、アプリケーションを正常にインストールできなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「VirusScan」を使用不可にしてください。
 - ・「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「VShield」をクリックし、「タスク」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。
 - ・「VirusScan」アイコンがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「使用可能」→「システムスキャン」の順にクリックし、チェックを外します。
- ▶ VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- ▶ 本ワークステーションをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- ▶ VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル(DAT ファイル)と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
<http://www.nai.com/japan/>

スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

△ 重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染してしまい、本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

2

快適
い
た
だ
く
使
い
た
め
に

2 画面を設定する

ここでは、Windows 2000 上で画面の設定を変更する方法について説明します。

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少なくなります。
- ▶ 解像度、色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ▶ 画面の設定は、すべてのアプリケーションを終了させてから行ってください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示位置が左右にずれる場合があります。この場合は、ディスプレイの設定機能を使用して正しい位置に表示されるよう調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

設定項目が表示されます。

3 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「新しいデスクトップ設定を適用します。」と表示されたら「OK」をクリックします。

5 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、次に表示されるダイアログボックスで「OK」をクリックし、手順3に戻り再度解像度などを選択します。

設定が有効になります。

補足情報

「画面のプロパティ」ダイアログボックス内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプを参照してください。通常は初期設定値でご使用ください。

3 Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。

PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください (→ P45)。

PMAN の機能

本ワークステーションで使用できる機能は、以下のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダスケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wake on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入／切断（自動シャットダウン含む）を行うことができます。グループ指定（運用単位）により複数のワークステーションを一括して電源投入／切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール)」(別売) の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時（シャットダウン時）のイベントごとにユーザープロセス（プログラム、コマンドなど）を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることができます。たとえば、通常停止（電源切断）のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。
- ▶ 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源の管理」－「詳細タブ」－「電源ボタン」の設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。

- ▶ DHCPについて（リモート電源制御機能使用時のみ）
本ソフトウェアは、DHCPプロトコルに対応していません。必ず、固定IPアドレスを使用してください。
- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第3章

リカバリとインストール

本ワークステーションをご購入時の状態に戻す
「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」
について説明しています。

1 リカバリ概要	26
2 リカバリ操作	28
3 ソフトウェアのインストール	32

1 リカバリ概要

Windows が起動されないなどの問題が発生した場合、またはハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「[プレインストール仕様](#)」（→ P.14））に戻す操作です。

リカバリは、大きく2種類に分かれます。

- ご購入時の状態に戻す
現在のハードディスクの領域設定はそのままで、C ドライブをご購入時の状態に戻します。
- 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す
ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
ハードディスク領域を変更したときには、領域設定が必要になります。

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

ご購入時の状態に戻す場合

ハードディスクの領域設定は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみをリカバリします。

- 1 リカバリ前の準備（→ P.28）
- 2 リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）（→ P.28）
- 3 リカバリ終了後（→ P.31）

領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す場合

リカバリ中に画面上で確認しながら、ハードディスクの領域を再設定します。
100MB 単位で2区画まで設定できます。

- 1 リカバリ前の準備（→ P.28）
- 2 リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）（→ P.29）
- 3 リカバリ終了後（→ P.31）

留意事項

- 次のドライバ、ソフトウェアについては、ご購入時の状態には戻りません。リカバリ後、個別にインストールする必要があります。
 - ディスプレイドライバ (Matrox Millennium G450 Driver)
 - 3モードフロッピードライバ
 - IDE ドライバ
- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- リカバリを行うと、C ドライブはFAT32 に設定されます。C ドライブをNTFS に変換していた場合は、リカバリ後再度 NTFS に変換してください (→ P.53)。
- オプションを取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」以外を選択してリカバリを行った場合、リカバリしたあと、必ず D ドライブをフォーマットしてください。また、リカバリ前に必要なデータを必ずバックアップしてください。

2 リカバリ操作

本ワークステーションをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- ▶ リカバリに関する留意事項（→ P.27）をよくお読みの上、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します（→『ハードウェアガイド』参照）。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

本ワークステーションをご購入時の状態に戻します。ハードディスクの領域は変更されません。

POINT

- ▶ リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM 1/3」
- 「リカバリ CD-ROM 2/3」

1 「リカバリ CD-ROM 1/3」をセットします。

2 本ワークステーションを再起動します。

3 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

- 4 「ご購入時の状態に戻す(推奨)」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。**
確認の画面が表示されます。

POINT

- ▶ ハードディスクの領域を設定し直してリカバリしたい場合は、「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択してください。画面を見ながら区画を任意に設定し、リカバリできます（→ P.29）。

- 5 【Y】キーを押します。**

「DatacloningWizard」と画面に表示され、ファイルのコピーが始まります。
「No.2 のメディアをドライブ [CD-ROM ドライブ]：に入れてください。準備はいいですか (Y/N)>」と表示されたら「リカバリ CD-ROM 2/3」をセットし、しばらくしてから【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました」と表示されます。

- 6 CD-ROMを取り出してから、本ワークステーションの電源を切ります。**

- 7 以降、第1章を参照して操作してください（→ P.8）。**

※ 重 要

- ▶ リカバリ後に CD-ROM ドライブのドライブレターが消えることがあります。この場合は「第4章 困ったときに」の「トラブルシューティング」（→ P.48）を参照し、ドライブレターを設定しなおしてください。
- ▶ セットアップ終了後、再起動時に「ディスクの挿入」ダイアログが表示されることがあります。この場合、「キャンセル」をクリックしてください。

3

リカバリストール

リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）

ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。

リカバリ中に画面で確認しながら、100MB 単位で 2 区画までの領域を設定できます。

POINT

- ▶ ハードディスクの領域設定を行うと、C ドライブおよび D ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM 1/3」
- 「リカバリ CD-ROM 2/3」

- 1 「リカバリ CD-ROM 1/3」を起動し、リカバリメニューを表示します。**

表示方法については、「リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）」（→ P.28）の手順 1～3 をご覧ください。

- 2 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。**

領域の設定方法により、ここからの操作は異なります。

- 3 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行ってください。**

重要

- ▶ 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

- 任意の領域を設定する →手順4へ
- ご購入時の領域の状態に戻す →手順5へ

- 4 「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。**

【←】【→】キーを押すと、100MB単位で、領域を設定することができます。

ハードディスク全体をCドライブとして設定する場合は、【P】キーを押し、「ハードディスクを1つの区画として設定する」にチェックマークをつけます。

領域を設定したら、【Enter】キーを押し、手順6へ進みます。

- 5 「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。**

- 6 【Y】キーを押します。**

領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

- 7 【Enter】キーを押します。**

本ワークステーションが再起動し、「DatacloningWizard」と画面に表示され、ファイルのコピーが始まります。

「No.2 のメディアをドライブ○：に入れてください。準備はいいですか(Y/N)>」と画面に表示されたら「リカバリ CD-ROM 2/3」をセットし、しばらくしてから【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました」と表示されます。

- 8 このあとは、「リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）」の手順6（→ P.29）へ進んでください。**

重要

- ▶ リカバリ後にCD-ROMドライブのドライブレターが消えることがあります。この場合は「第4章 困ったときに」の「トラブルシューティング」（→ P.48）を参照し、ドライブレターを設定しなおしてください。
- ▶ セットアップ終了後、再起動時に「ディスクの挿入」ダイアログが表示されることがあります。この場合、[キャンセル]をクリックしてください。

リカバリ終了後

リカバリ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください（→P.17）。
また、必要に応じて添付アプリケーションをインストールしてください（→P.44）。

POINT

- ▶ リカバリを行ったあとは、音量がご購入時の状態に戻ります。スピーカー音を調整するには、タスクバーのスピーカーアイコンをクリックし、表示された音量調整つまみで行ってください。

3

リカ
バリと
ストー
ル

3 ソフトウェアのインストール

ドライバおよびアプリケーションのインストール方法を説明します。

重要

- ▶ 添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。
なお、「ドライバーズ CD」の IndexCD.htm もご覧ください。
- ▶ 必要なドライバやアプリケーションをインストールしたら、Windows 2000 Service Pack1 を必ずインストールしてください (→ P.42)。

ドライバのインストール

リカバリ後、一部のドライバを除いて、ドライバを再インストールする必要はありません。

● 再インストールが必要なドライバ

- ディスプレイドライバ (Matrox Millennium G450 Driver)
- 3 モードフロッピードライバ
- IDE ドライバ

ドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。ドライバの再インストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。インストール手順は次の表の場所にあります。

分類	ドライバ	インストール手順の保存場所とファイル名
チップセット ドライバ	Intel Chipset Software Installation Utility	「チップセットドライバのインストール」(→ P.33)
IDE ドライバ	Intel Ultra ATA Storage Driver	「IDE ドライバのインストール」(→ P.34)
ディスプレイ ドライバ	Matrox Millennium G450 Driver	「ディスプレイドライバのインストール (Matrox Millennium G450 Driver の場合)」(→ P.35)
	CELSIUS Quadro2 MXR Driver	「ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS Quadro2 MXR Driver の場合)」(→ P.35)
	CELSIUS GL2 Driver	「ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS GL2 Driver の場合)」(→ P.36)
サウンドドライバ	AD1881A Audio Driver	「サウンドドライバのインストール」(→ P.37)

分類	ドライバ	インストール手順の保存場所と ファイル名
LAN ドライバ	Intel PRO/100 LAN Driver	「 LAN ドライバのインストール 」(→ P.38)

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「IndexCD.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の Readme.txt または Install.txt をご覧ください。

POINT

- ▶ SCSI ドライバ、LAN ドライバ(Fast Ethernet カード用)、DAT ドライバはインストールする必要はありません。

チップセットドライバのインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 [CD-ROM ドライブ] : ¥W2k¥Intel\Inf\Setup.exe
 セットアップが始まります。
- 5 「Welcome」ダイアログボックスが表示されたら、「Next」をクリックします。
 「Software License Agreement」ダイアログボックスが表示されます。
- 6 「Yes」をクリックします。
 「Readme Information」ダイアログボックスが表示されます。
- 7 「Next」をクリックします。
 インストールが始まります。
- 8 「Setup Complete」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes, I want to restart my computer now.」が選択されているのを確認し、CD-ROM を取り出してから「Finish」をクリックします。
 本ワークステーションが再起動されます。

IDE ドライバのインストール

☞ 重要

- ▶ IDE ドライバをインストールする前に、必ずチップセットドライバをインストールしてください。(→ P.33)

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:¥W2k¥IntelATA¥Intelata603_multi.exe
セットアップが始まります。
- 5 「Intel Ultra ATA Storage Driver 6.0 を設定」ダイアログボックスが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 6 「使用許諾契約」で「はい」をクリックします。
- 7 「インストール先の選択」で「次へ」をクリックします。
- 8 「プログラムフォルダの選択」で「次へ」をクリックします。
インストールが始まります。
- 9 「InstallShield ウィザードの完了」が表示されたら、CD-ROMを取り出してから「完了」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

☞ 重要

- ▶ 再起動後、「今すぐ再起動しますか?」のメッセージが表示されることがあります。この場合、「はい」をクリックし、本ワークステーションを再起動してください。

ディスプレイドライバのインストール（Matrox Millennium G450 Driver の場合）

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されることがあります、この場合は「キャンセル」をクリックしてください。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「名前」に次のように入力して「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ] : ¥W2k¥G450¥Setup.exe
「Matrox PowerDesk セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「Japanese」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 5** 「Matrox Millennium G450 Dual Head」を選択して「次へ」をクリックします。
- 6** 設定内容の確認後、「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
- 7** 「終了しました。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 8** 「変更内容を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。」というメッセージが表示されたら、CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し「完了」をクリックします。このとき、セットアップが完了するまで、しばらくの間マウスのボタンをクリックしないでください。
本ワークステーションが再起動されます。再起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 9** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、コントロールパネルの中の「画面」アイコンをダブルクリックしてください。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。「設定」タブで、ご希望の解像度／色数を設定してください。

ディスプレイドライバのインストール（CELSIUS Quadro2 MXR Driver の場合）

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「ハードウェアの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
「ハードウェアの追加と削除 ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されます。

- 4** 「次へ」をクリックします。
- 5** 「ハードウェアに関する作業の選択」で「デバイスの追加／トラブルシューティング」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 6** 「ハードウェアデバイスの選択」で「ビデオコントローラ（VGA 互換）」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 7** 「ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了」で「完了」をクリックします。
- 8** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」で「次へ」をクリックします。
- 9** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 10** 「ドライバファイルの特定」の検索場所のオプションで、「場所を指定」のみを選択し、「次へ」をクリックします。
- 11** 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥Quadro2
- 12** 「ドライバファイルの検索」で「[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥Quadro2¥nv4_disp.inf」が表示されているのを確認し、「次へ」をクリックします。
「デジタル署名が見つかりませんでした」ダイアログボックスが表示されることがあります、この場合は「はい」をクリックしてください。
- 13** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」が表示されたら「完了」をクリックします。
- 14** 「今すぐ再起動しますか？」が表示されたら、CD-ROMを取り出してから「はい」をクリックします。
再起動後、管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 15** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「ディスプレイの設定」タブで、ご希望の解像度／色数を設定してください。

ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS GL2 Driver の場合)

- 1** 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。

- 3** 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5** 「その他のデバイス」→「ビデオコントローラ（VGA 互換）」の順にダブルクリックします。
「ビデオコントローラ（VGA 互換）のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「ドライバの再インストール」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」で「次へ」をクリックします。
- 8** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 9** 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」を選択して、「次へ」をクリックします。
ドライバファイルの検索が開始されます。
- 10** 「ドライバファイルの検索」で「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
- 11** 「デバイスドライバのアップグレード ウィザードの完了」が表示されたら「完了」をクリックします。
- 12** 「今すぐ再起動しますか？」が表示されたら、CD-ROMを取り出してから「はい」をクリックします。
再起動後、管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 13** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで、ご希望の解像度／色数を設定してください。

サウンドドライバのインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 4** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5** 「その他のデバイス」→「マルチメディア オーディオ コントローラ」の順にダブルクリックします。
「マルチメディア オーディオ コントローラのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「全般」タブの「ドライバの再インストール」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」のチェックボックスをチェックし、「次へ」をクリックします。
- 9** 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」のチェックボックスがチェックされているのを確認して、「次へ」をクリックします。
- 10** 「ドライバファイルの検索」で「次へ」をクリックします。
インストールが始まります。
- 11** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」が表示されたら「完了」をクリックします。
- 12** CD-ROMを取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。
本ワークステーションが再起動され、オーディオ機能が使用できるようになります。

LAN ドライバのインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5** 「その他のデバイス」→「イーサネットコントローラ」の順にダブルクリックします。
「イーサネットコントローラのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 6** 「ドライバの再インストール」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」チェックボックスをチェックし、「次へ」をクリックします。
- 9** 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 10** 「ドライバファイルの検索」で「次へ」をクリックします。
インストールが始まります。
- 11** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」が表示されたら、「完了」をクリックします。
- 12** CD-ROMを取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。

3 モードフロッピーディスクドライバのインストール

※ 重 要

- ▶ フロッピーディスクコントローラ用ドライバとフロッピーディスクドライブ用ドライバの2本のドライバをインストールする必要があります。

3

リカ
ンバ
リスト
ール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5** 「フロッピーディスクコントローラ」→「標準フロッピーディスクコントローラ」の順にダブルクリックします。
「標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。

- 8** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 9** 「デバイスドライバの選択」で「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」を選択して、「ディスク使用」をクリックします。
「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 10** 「製造元のファイルのコピー元」の「[CD-ROM ドライブ]¥W2k¥3Mode¥FJFDC.INF」を選択し、「開く」をクリックします。
- 11** 「OK」をクリックします。
ドライバリストが表示されます。
- 12** 表示されたドライバリストの中から「Fujitsu 3-mode floppy controller (Type00)」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 13** 「デバイスドライバのインストールの開始」で「次へ」をクリックします。
インストールが始まります。
- 14** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」で「完了」をクリックします。
- 15** 「Fujitsu 3-mode floppy controller (Type00) のプロパティ」で「閉じる」をクリックします。

☞ 重 要

- ▶ 3モードフロッピーディスクドライバがすでにインストールされている場合、「ファイルの上書きの確認」ダイアログボックスが表示されます。その場合は「はい」をクリックしてください。
- ▶ 「今すぐ再起動しますか？」のメッセージが表示されることがあります。この場合は、「はい」をクリックし、本ワークステーションを再起動してください。

- 16** 手順3～4を行います。
- 17** 「フロッピーディスクドライブ」→「フロッピーディスクドライブ」の順にダブルクリックします。
「フロッピーディスクドライブのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 18** 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 19** 「次へ」をクリックします。

- 20** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 21** 「デバイスドライバの選択」で「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」チェックボックスをチェックし、「ディスク使用」をクリックします。「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 22** 「製造元のファイルのコピー元」の「[CD-ROM ドライブ]:¥W2k¥3Mode¥FJFLPY.INF」を選択し、「開く」をクリックします。
- 23** 「OK」をクリックします。
ドライバリストが表示されます。
- 24** 表示されたドライバリストの中から「Fujitsu 3-mode floppy disk driver」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 25** 「デバイスドライバのインストールの開始」で「次へ」をクリックします。インストールが始まります。
- 26** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」で「完了」をクリックします。
- 27** 「Fujitsu 3-mode floppy disk drive のプロパティ」で「閉じる」をクリックします。
- 28** CD-ROMを取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。

※ 重 要

- ▶ 3モードフロッピーディスクドライバがすでにインストールされている場合、「ファイルの上書きの確認」ダイアログボックスが表示されます。その場合は「はい」をクリックしてください。
- ▶ 「今すぐ再起動しますか？」のメッセージが表示されることがあります。この場合は、「はい」をクリックし、本ワークステーションを再起動してください。

光磁気ディスク・ユーティリティのインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ] : ¥W2k¥Moformat¥MOFORMAT.MSI

このあとは、メッセージに従って操作します。

Windows 2000 Service Pack1 のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
C:\\$support\\$sp\\$sp1\network.exe
- 4 「使用許諾」を読み、「同意する」をクリックし、「インストール」をクリックします。

このあとは、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 - 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 - 2 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

プレインストールソフトのインストール

ここでは、ご購入時にインストールされているソフトウェアのインストール方法について記述しています。アンインストールしたソフトウェアを再度インストールする場合のみ、次の方法でインストールしてください。

POINT

- ▶ カスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールする方法は、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

Windows 環境調査ツール（FM Advisor）のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥W2k¥FmAdv¥advisor¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

Acrobat Reader のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥W2k¥Ac¥acrobat¥ar405jpn.exe

- 5** 「次へ」を2回クリックします。
- 6** 「情報」で「OK」をクリックします。
- 7** CD-ROMを取り出してから、本ワークステーションを再起動します。

添付ソフトのインストール

VirusScan のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:\W2k\Vsnt\SETUP.EXE

インストールが始まります。次のポイントを参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- ▶ 「サービスアカウント情報」ダイアログボックスでは、Administrators グループの「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

FM-Menu のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:\W2k\FMMenu\Setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

はじめよう！インターネット (@nifty) のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:\W2k\NIFTYSGN\NIFTYSGN\Setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

PMAN のインストール

POINT

- ▶ リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。
- ▶ PMAN の詳細については、「Power MANagement for Windows」(→ P.23) をご覧ください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力して、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ] : ¥W2k¥Pman¥PMANSUB¥Setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

3

リカ
ンバ
リと
ル

Memo

第4章

困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

4

- | | |
|-----------------------|----|
| 1 こんなときには | 48 |
| 2 それでも解決できないときは | 54 |

1 こんなときには

ここでは、Windows 2000 の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

Windows 2000 に関して

添付の Windows 2000 のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

Q プログラムが動かなくなってしまった

A 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。

「Windows のセキュリティ」ウインドウが表示されます。

2 「タスクマネージャ」をクリックします。

「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

3 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。

プログラムが強制終了されます。

「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスを閉じます。

POINT

▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。

▶ プログラムを強制終了した場合は、次の手順でディスクをチェックすることをお勧めします。

1 実行中のプログラムをすべて終了します。

2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

3 プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

4 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。

5 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックし、C ドライブを検査する場合は、「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか?」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 2000 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。

6 「OK」をクリックします。

Q マウスが使えないため、Windows 2000 を終了できない

A キーボードを使って Windows 2000 を終了できます。

1 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。

「スタート」メニューが表示されます。

2 【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

3 【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。

Windows 2000 が終了します。

マウスが故障している場合は、担当営業員または担当保守員まで連絡してください。

Q ディスクライドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

A1 Windows 2000 が起動されないときは、Safe モードで起動してから、ドライバをインストールしてください。

手順は次のとおりです。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。

「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。

3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。

4 「Microsoft Windows 2000 Professional」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

6 「OK」をクリックします。

A2 各ドライバをインストールし直す必要があります。

お使いの機種に対応する各ドライバは、「ドライブ構成」(→ P.16) でご確認ください。

インストール方法については、「ドライバのインストール」(→ P.32) をご覧ください。

Q リカバリ後に CD-ROM のドライブレターが消えた

A1 ドライブレターを割り当て直してください。

手順は次のとおりです。

1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。

2 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 「管理ツール」→「コンピュータの管理」アイコンの順にダブルクリックします。

4 「コンピュータの管理」ダイアログの「ツリー」から「記憶域」→「ディスク管理」の順にクリックします。

5 「CDROM0」を右クリックして、「ドライブ文字とパスの変更」メニューを選択します。

6 「追加」ボタンをクリックして、「ドライブ文字の割り当て」で割り当てるドライブレターを選択します。

※出荷時の設定は E: になっています。

Q アプリケーションのインストールが正常に行われない

A ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。

ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。

ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

Q オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない

A 本ワークステーションでは、次の診断アプリケーションを用意しています。

FM Advisor

FM Advisor の使用方法は、次のとおりです。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。

調査結果が表示されます。

POINT

- ▶ 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。

Windows 2000 に関する Q&A

Q 光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用するには？

A 光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、「光磁気ディスク・ユーティリティ」を使用してください。

なお、光磁気ディスク・ユーティリティの使用方法については、「ドライバーズ CD」の「W2k\Moformat\Readme.txt」をご覧ください。

Q キーボードの NumLock がオンの状態で、Windows 2000 を起動する方法は？

A Windows 2000 上で【NumLock】キーを押し、NumLock をオンにします。次回起動からは、NumLock がオンの状態で Windows 2000 が起動されます。

Q Windows95 や MS-DOS のように、ワークステーション同士をシリアルケーブルで接続してデータのやりとりができますか？

A RAS (Remote Access Service) の機能を使うことによって、シリアルケーブル接続でのデータのやりとりが可能です。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「コントロールパネル」ウィンドウの「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックします。

3 所在地情報を入力するダイアログボックスが表示された場合は、所在地の設定を行い「OK」をクリックします。

「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスが表示されます。

4 「モデム」タブをクリックし、「追加」をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。

5 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。

6 「製造元」から「(標準モデムの種類)」を、「モデル」から「2台のコンピュータ間の通信ケーブル」を選択し、「次へ」をクリックします。

7 「選択したポート」をクリックし、表示されている COMn (n には数字が表示されています) をクリックして、「次へ」をクリックします。

8 「完了」をクリックします。

9 「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

Q ログオン時のパスワードに、大文字、小文字の区別はありますか？

A あります。

Q 自動ログオン（パスワード入力なしでログオンすること）の設定方法は？

A Windows 2000 セットアップ時に「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」を選択した場合は、ログオン時に「Windows ヘログオン」ダイアログボックスが表示され、パスワードの入力を求められます。次の手順で自動ログオンが可能になります。なお、自動ログオンは、本ワークステーションがネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している場合に設定できます。

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「コントロールパネル」 ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 自動ログオンするユーザー名をクリックし、「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります」のチェックを外します。
- 4 「OK」をクリックします。
「自動ログオン」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 「パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 自動ログオン機能を使用した場合、正規ユーザー以外が本ワークステーションを使用したり、ネットワークにログインしたりすることが可能になります。セキュリティ上の問題が発生する場合、自動ログオン機能を使用しないでください。
- ▶ ネットワーク環境で自動ログオン機能を使用する場合、起動時にサーバーに接続できない場合があります。この場合は、サーバーへの再接続を行ってください。

Q Windows NT のように【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押してからログオンするには？

A 次の手順で設定してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「コントロールパネル」 ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「詳細」タブをクリックします。
- 4 「ブート時のセキュリティ設定」の「ユーザーがログオンする前には必ず Ctrl+Alt+Del キーを押す」をチェックし、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 自動ログオン機能を有効にしている場合は自動ログオン機能が優先されるため、電源を入れたときや再起動したときには、キー入力は求められません。スタンバイや休止状態からの復帰時にのみキー入力を求められます。

Q マウスポインタのデザインを変えるには？

A 「コントロールパネル」 ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックし、「ポインタ」タブで設定してください。

Q ファイルシステムを NTFS に変換する方法は？

A ファイルシステムを NTFS に変換すると、セキュリティや信頼性を強化できます。変換方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ NTFS に変換した場合、Windows 2000、Windows NT 4.0（Service Pack4 以降）以外の OS からは、ファイルにアクセスできなくなります。
- ▶ すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。
- ▶ NTFS 区画のドライブに対して chkdsk.exe を実行しないでください。問題が発生することがあります。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
convert n: /fs:ntfs /v
(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)
```

C ドライブを変換する場合は、次のメッセージが表示されます。

「ファイルシステムの種類は FAT です。

CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」

- 4 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。
- 5 「コマンドプロンプト」ウィンドウを閉じ、Windows 2000 を再起動します。

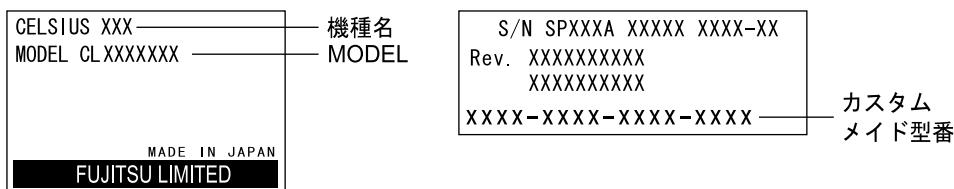
変換が行われます。このとき、Windows 2000 は 2 回再起動します。

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／MODEL／カスタムメイド型番を確認し、次のページのシートに環境とトラブル状況などを記入してください。

機種名／MODEL／カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	担当営業員または担当保守員
故障かなと思われたとき	担当営業員または担当保守員
技術的なご質問・ご相談	担当営業員または担当保守員
本ワークステーションにインストール されているソフトウェアのお問い合わせ せ	本書の冒頭に記載されている「 お問い合わせ一覧 」 (→ P.4)

情報サービス

また、次の方で情報サービスを行っております。

富士通ワークステーション FAX サービス (カタログ、Q&A 情報)	043-299-3642 (千葉) 06-6949-3270 (大阪)
インターネット (製品の技術情報)	富士通オープンシステム情報ページ PRIMESERVER GRANPOWER WORLD http://primeserver.fujitsu.com/

お問い合わせ前の確認シート

お使いの ワークステーション の機種は？	機種名 : CELSIUS	MODEL :
	カスタムメイド型番 :	
	購入日 :	

メモリの容量は？	本体標準 : MB	
	増設 : MB	[メーカー :] [型番 :]

増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー

お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン／レベル	メーカー
	Windows 2000 Professional	5.00.2195 (Service Pack)	—

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は？	
以前は問題なく 動作していましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

Memo

第5章

技術情報

お使いになるまでの留意事項を説明しています。

1 その他の留意事項	58
------------------	----

1 その他の留意事項

本ワークステーションをお使いになる上で留意する事項を記載しています。

Windows 2000 の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「Windows 2000」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「c:\support\i386」を指定してください。

○ 重要

- ▶ 上記フォルダは削除しないでください。削除すると、ネットワークコンポーネントの追加などができなくなります。

本ワークステーションで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本ワークステーションおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本ワークステーションに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版入手して使用してください。

また、本ワークステーションに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

Acrobat Readerについて

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本ワークステーションにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。

バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（→ P.43）。

ネットワーク運用時の省電力機能

ネットワーク環境下で省電力状態へ移行すると、お使いになるアプリケーションによっては、復旧後に不具合が発生する場合があります。

不具合が発生した場合は、本ワークステーションを再起動してください。

また、通信中は省電力状態へ移行させないでください。

Windows 2000 での Wake On LAN 機能

POINT

- ▶ Windows 2000 での Wake On LAN 機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。LAN 経由の電源 ON/OFF には PMAN (→ P.23) を使用してください。

ネットワーク環境下で Wake On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5** 以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」
- 6** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7** 以下の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
 - ・ このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようとする
 - ・ 電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようとする

Wake On LAN 機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報に更新するためにコンピュータが定期的にアクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」アイコンをダブルクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 「電源設定」タブの「システム スタンバイ」または「システム休止状態」を「20分後」以上に設定します。**

○ **POINT**

- ▶ 設定値が 20 分より短いと、ワークステーション本体が省電力モードに移行していても他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく 20 分よりも長い値を設定してください。

ネットワーク使用時の留意事項

オプションの LAN カードを、2 枚以上使用したネットワーク運用は、本ワークステーションではサポートしておりません。

LAN の設定を変更する

次の場合、ご使用になる環境に合わせて設定を行ってください。

- 本ワークステーションをハブユニットに接続した時、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない

■ ローカルアドレスを使用する

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。**
- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。**
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**
- 5 以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」

6 「Advanced」タブをクリックします。

• スピードとデュプレックスの設定

本ワークステーションをハブユニットに接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない場合は、以下の設定を変更してください。

Link Speed & Duplex :「プロパティ」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「値」から通信速度／通信方式を指定します。

100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

Auto Detect … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

POINT

▶ Full Duplexに設定する場合、ハブユニット側も Full Duplexに設定する必要があります。

• ローカルアドレスの設定

ローカルアドレスを使用する場合は、以下の設定を変更してください。

Locally Administered Address :「プロパティ」の「Locally AdministeredAddress」をクリックし、「値」に「02」で始まる16進12桁を入力します。

グローバルアドレスに戻したい場合は、「Restore Default」ボタンをクリックします。なお、設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

7 「OK」をクリックします。

8 すべてのダイアログボックスを閉じます。

ACPI モード

ご購入時、本ワークステーションは ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに設定されています。APM (Advanced Power Management) モードなどへの変更はできません。ここでは、ACPI モードに関する留意事項を説明します。

■ オプションに関する注意

オプションが ACPI モードに対応している必要があります。ACPI モードに対応していないオプションを接続すると、オプションが使用できなくなる、またはスタンバイモードから復帰できなくなる場合があります。事前にオプションが ACPI モードに対応しているかどうかをオプションのメーカーに確認してください。

なお、最新ドライバに変更することで ACPI モードに対応できるオプションもあります。詳細はオプションのメーカーに確認してください。

■ 使用できない機能

● BIOS セットアップの省電力メニュー

BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、『ハードウェアガイド』をご覧ください。

■ その他の注意

- ACPI の制御およびすべての PCI デバイスが、システムリソースの「IRQ9」を使用します。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング(割り込みの共有)」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイ状態にならない／スタンバイ状態から復帰しない／復帰後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
 - Windows 2000 の起動中／シャットダウン処理中
 - ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
 - 動画の再生中や音楽の録音、再生中
 - モデムやネットワークの通信中
 - マウスの操作中
 - プリンタ印刷中
 - ACPI モードに対応していないオプション（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」を次のように設定し、電源スイッチや「スタート」ボタン→「シャットダウン」→「スタンバイ」の順にクリックして強制的にスタンバイ状態にさせず、アイドル状態のときだけ移行させてください。
 - 「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定します（ご購入時設定済み）。これにより、電源スイッチを使った強制的なスタンバイ状態への移行を回避できます。
 - 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で移行するまでのアイドル時間（たとえば「30 分後」）を設定します。これにより、ファイルアクセス中や通信中などにスタンバイ状態への移行を回避できます。
- スタンバイ状態へ移行するときに、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」と警告ダイアログボックスが表示される場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイ状態へ移行させるためには、動作中のプログラムを終了させてください。

■スタンバイ状態からの復帰条件

ACPI モードの標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイ状態から、次の表で○になっている復帰要因で通常の状態に復帰させることができます。

復帰要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)
電源スイッチ※1	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス	○※2	○※2
USB キーボード、USB マウス	○※2	○※2
時刻指定※3	○	○
LAN ※4	○	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号) ※5	○	○
PCI 拡張カード (PME# 信号) ※6	○	○

※1 : 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」 - 「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰します。

※2 : 「デバイスマネージャ」の「キーボード」と「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の下にあるデバイスをダブルクリックし、「電源の管理」タブで「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」をチェックした場合

※3 : 「タスク」を使用した場合

※4 : 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの以下の項目をチェックする必要があります。

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」
- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようになります」

※5 : 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※6 : PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

休止状態に関する留意事項

次の状態で休止状態に移行させると、休止状態にならない / 休止状態から復帰しない / 復帰後に正常に動作しない / データが消失するなどの問題が発生することがあります。

- Windows 2000 の起動中 / シャットダウン処理中
- ファイルアクセス中 (フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中)
- 動画の再生中や音楽の録音、再生中
- モデムやネットワークの通信中
- マウスの操作中
- プリンタ印刷中
- 休止状態に対応していないオプション (拡張カード、周辺機器) を増設している場合

ディスプレイドライバ

- アプリケーションが正常に動作しない場合は、ディスプレイドライバをインストールし直してください。インストール方法については、「[ドライバのインストール](#)」(→ P.32) をご覧ください。
- お使いのアプリケーションによっては、正しく表示されない場合があります。この場合は、アプリケーションが Windows 2000 に対応しているか、メーカーにお問い合わせください。
- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に 3D グラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出ることがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- アプリケーションをお使いのとき、アイコン表示やウィンドウの一部などが画面に残ったり、アプリケーションのウィンドウ内で再描画されずにゴミが残っているように見えたりする場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。
 - 1 ウィンドウの右上の最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
 - 2 タスクバーの最小化されたアプリケーションを右クリックし、「元のサイズに戻す」をクリックすると、再表示されます。
- 画面表示の開始時やディスプレイドライバのインストール時、表示モードが切り替わるとき（Windows 2000 の起動、終了画面やスタンバイ状態およびシステム休止状態から復帰するときなど）、一時的に画面が乱れたり横線が見えたりする場合がありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。

表示されるメモリサイズ

- 「システムのプロパティ」ダイアログボックスで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

「コンポーネントサービス」の留意事項

「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。

ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウ「管理ツール」内の「コンポーネントサービス」を起動し、「コンソールルート」－「コンポーネントサービス」－「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きことがあります。このエラーが起こると、本ワークステーションの動作が不安定になります。

この場合は、本ワークステーションを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになれます。

CD-ROM ドライブユニットの留意事項

「コンピュータの管理」で「記憶域」－「リムーバブル記憶域」－「物理的な場所」を表示した場合、CD-ROM ドライブユニットが 1 つしかないにもかかわらず 2 つ表示されることがあります。この場合は、赤い×印のついているドライブを選択し、「操作」メニュー→「削除」の順にクリックして削除してください。

ネットワーク識別ウィザードについて

LAN モデルでは、Windows 2000 セットアップ時にネットワーク識別ウィザードが自動的に起動されますが、このとき「戻る」をクリックしないでください。再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

省電力設定について

省電力設定は、ユーザー別に設定できます。このため、管理者権限を持ったユーザーでログオンした場合と他のユーザーでログオンした場合で設定が異なります。

必要に応じ、「コントロールパネル」 ウィンドウ 「電源オプション」 で設定してください。

Outlook Express のパスワードについて

管理者権限を持ったユーザーでログオン時に、インターネット接続ウィザード中に設定したメールのパスワードが、Outlook Express に反映されません。

Outlook Express 起動後にメールのパスワードをもう一度設定してください。

Memo _____

索引

記号

3 モードフロッピーディスク ドライバの
インストール 39

A

ACPI モード 61
Acrobat Reader 14
　ーのインストール 43

D

Desk View 15
DirectX7.0a 14
DMA の設定 16

F

FAT16 16
FAT32 16
FM Advisor 14, 50
FM-Menu 15
　ーのインストール 44

I

IDE ドライバ 32
　ーのインストール 34
Internet Explorer 5.01 14

L

LAN
　ーの設定を変更する 60
LAN ドライバ 33
　ーのインストール 38

M

Microsoft IME 2000 14
MODEL 54

N

NTFS 16
　ーへの変換 53
NumLock 51

P

Power Management for Windows
(PMAN) 15, 23
　ーのインストール 45

Q

Q&A 51

V

VirusScan 15, 20
　ーのインストール 44

W

Wake On LAN 機能 59
Windows 2000 14
　ーセットアップ 8
　ーの CD-ROM 58
Windows 環境調査ツール
(FM Advisor) 14
　ーのインストール 43

あ

アンインストール 17
お問い合わせ前の確認シート 55

か

カスタムメイド型番 54
コンピュータウイルス
　ーの被害届け 21
　ーを発見した場合 21

さ

サウンドドライバ 32
　ーのインストール 37
自動ログオン 52
情報サービス 54
シリアルケーブル接続 51

た

チップセットドライバ.....	32
ーのインストール.....	33
ディスプレイドライバ.....	32
ーのインストール.....	35, 36
ドライバーズ CD	32
ドライブ構成.....	16
トラブルシューティング.....	48

な

ネットワーク	
ー ID の設定.....	12
ー 運用時の省電力機能.....	58
ー コンポーネントのインストール ..	11
ー 使用時の注意事項.....	60
ー の設定.....	11

は

ハードディスクの領域を設定する.....	32
はじめよう！インターネット	
(@nifty)	15
ー のインストール.....	44
パスワード.....	51, 52
光磁気ディスク	
ー ドライブをスーパーフロッピー	
形式で使用する.....	51
光磁気ディスク・ユーティリティ ..	14, 51
ー のインストール.....	42
ファイルシステム.....	16
ブレインストール	
ー 仕様.....	14
ー ソフト.....	14

ま

マウスポインタのデザインを変える ...	52
マルチモニタ機能.....	23
モデム	
ー を使用可能にする.....	13

や

ユーザー登録.....	13
-------------	----

ら

リカバリ	26
連絡先	54

Memo

使用許諾契約書

このたびは、富士通株式会社（以下弊社といいます）製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

弊社では、本ワークステーションにインストール、もしくは添付されているソフトウェアのうち、弊社が取り扱うソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを条件とさせていただいております。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で本契約に同意していただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただけますようお願い申しあげます。

ただし、本ソフトウェアのうちの特定のソフトウェアに関する「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は本ソフトウェアを、日本国内において同時に1台のコンピュータでのみ使用できます。

なお、お客様は本ワークステーションのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属します。

2 バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1式の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。

3 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合にはお客様はマニュアル等に記載されている要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。

(2) 前号「(1)」によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、お客様は本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェアを第三者へ譲渡する場合には、お客様が保有する本ソフトウェアの複製物のすべてを破棄するか、本ソフトウェアとともに第三者に譲渡してください。

6 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7 アフターサービス（保証の範囲）

(1) 弊社は、お客様が「ユーザー登録カード」を弊社宛にご返送いただいた場合に限り、本ワークステーションをご購入いただいた日から1年間、本ソフトウェアの改訂版（レベルアップ）に関する情報等をお知らせいたします。

(2) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して、弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合は、本ワークステーションをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）、（2）および（3）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

(4) 弊社は、前各号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中止、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

CELSIUS 460

ソフトウェアガイド
Windows 2000
P3F1-0960-01

発行日 2001年6月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

